

# 学校関係者評価報告書

学校法人 麻生塾  
麻生情報ビジネス専門学校

## 目次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針	- 3 -
2. 学校関係者評価委員出席者名簿	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況	- 4 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法	- 4 -
5. 学校関係者評価の評価方法	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告	- 5 -
1. 重点項目について	- 5 -
2. 基準項目について	- 7 -

## I. 学校関係者評価の概要と実施状況

### 1. 学校関係者評価の目的と基本方針

#### 1)目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者等・地域住民などの学校関係者が、麻生情報ビジネス専門学校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

#### 2)基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

### 2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏名	所属(役職)	出欠
業界関係者	豊里 明寛	一般社団法人福岡県情報サービス産業協会(企画調査委員会 委員長)	出席
業界関係者	菊本 健司	株式会社アルファクス・フード・システム (マーケティング営業戦略部 部長)	欠席
業界関係者	小林 憲一	小林憲一税理士事務所(所長)	出席
業界関係者	谷口 浩司	リコージャパン株式会社 (デジタルサービス営業本部 福岡支社 文教自治体営業部 文教グループ)	出席
業界関係者	馬場 伸一	特定非営利活動法人 九州組込みソフトウェアコンソーシアム (事務局長)	出席
有識者	前田 真	福岡地域戦略推進協議会 事務局次長	欠席
高等学校	大山 明	久留米市外三市町高等学校組合立 三井中央高等学校(校長)	出席
地域住民	浦川 美代子	博多駅南1丁目1区 自治会(会長)	出席
卒業生	中園 晴久	平成6年度情報経理科 卒業生 (株式会社藤本コーポレーション)	出席
保護者等	増本 光子	情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻在校生 保護者等	出席

※区分別、五十音順、敬称略

### 3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時:2024年7月3日(水) 16:00 ~ 17:30

場 所:麻生塾福岡キャンパス 1号館 3階 133 教室

### 4. 学校関係者評価委員会の実施方法

2023年度の活動実績に対し学校関係者評価委員と学校とで十分な意見交換を行い、学校の状況について共通理解を深めた。

自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果、課題及び改善策について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1)自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2)今後の解決方向が適切かどうか
- (3)学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4)その他、学校の運営に関する助言

### 5. 学校関係者評価の評価方法

基準項目の小項目ごとに、自己点検・評価と同じく下記の評価基準によって評価し、基準ごとに自己評価結果が適正であるかどうかを評価した。

自己評価結果に対する学校関係者評価の結果は基準項目ごとに表記している。

また、意見についてもとりまとめて記載している。

#### 評価基準

- S:適切
- A:ほぼ適切
- B:やや不適切
- C:不適切

## Ⅱ. 学校関係者評価委員会報告

### 1. 重点項目について

#### 【重点項目】

教育内容の積極的な発信や社会貢献のために、高校連携を強化する。

#### 【取組み状況及び総括(成果と課題)】

##### [取組み状況]

(下記は 2023 年 4 月から 2023 年 12 月の実績)

##### 教員向けセミナー

下記のセミナーを開催した。

高校教員向けセミナー 5講座 41校 49名参加 (昨年比 +1講座)

##### 高校生向けコンテスト

下記のコンテストを開催した。

第6回高校生プログラミングコンテスト(11校 66名参加) (昨年比 +1校 +18名)

第2回高校生ビジネススキルコンテスト(7校 88名参加) (2019年比 -2校 +62名)

##### 来校、出張授業

下記の来校、出張授業を実施した。

高校来校授業 22校 37講座 (昨年比 ±0校 +9講座)

高校出張授業 25校 26講座 (昨年比 +4校 +4講座)

中学校出張授業 1校 1講座 (昨年比 +1校 +1講座)

##### [成果と課題]

2023年5月8日から、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、季節性インフルエンザと同じ5類感染症に変更されたため、本校も高等学校も、コロナ禍以前の活動状況に戻って来た。そのため、教員向けセミナー、高校来校授業、高校出張授業のいずれも高校側からの希望が増え、昨年度以上に多くの参加者があった。

また、高校生プログラミングコンテストは、コロナ禍となった2020年から、本校と各高校をオンラインで結んで開催しており、今年も同様の方法で開催したが、沖縄や鹿児島等、遠隔地の高校を含む11校から66名という多くの参加者があった。

高校生ビジネスコンテスト(タイピング)は、2019年に、本校において対面で実施した後、コロナ禍のため実施を見送って来たが、今年は、本校と各高校をオンラインで結ぶ形で開催した。その結果、2019年時の3倍強の参加者があった。

今後は、在校生の教育に影響を与えない範囲で、いかに多くの希望に応えていくかが課題である。

【委員の方からのご意見】

・高校教員向けセミナーでは、高校での情報の授業のどれくらいの範囲を行ったのですか？

(回答:4割程度です。)

・以前やっていた「お仕事スタジアム」はやっていないのですか？

(回答:コロナ禍で中止し、それ以降は対面では開催していません。昨年、オンラインで開催しましたが、効果的ではなかったため、開催方法や内容を再検討しています。)

・とても重要な取り組みと思います。

・積極的に高校と連携していただき、感謝しております。

## 2. 基準項目について

### 基準 1 教育理念、目的、育成人材像

学校関係者評価結果： 適正

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

#### 【取り組み状況】

法人の教育理念は明文化し、麻生専門学校グループのホームページにて公表している。本校の教育理念や目的および育成人材像は、法人の理念を基に展開しており、麻生情報ビジネス専門学校福岡校のホームページにて公表している。また、これらは学生便覧に掲載し、教職員および学生に周知するとともに、学生に対しては、入学直後に新入生全員が集合してのオリエンテーションを実施して周知した。さらに、GCB教育(グローバルシティズン・ベーシック教育、麻生塾独自のキャリア教育プログラム)を通して、麻生塾の学生としてふさわしい態度や考えの指導に取り組んでいる。

新しい教職員が増えている中で、教育理念を教職員にしっかり浸透させるため、年度初めに、学生便覧(教育理念等)の読み合わせを行っている。

#### 【課題及びその改善方策】

特になし

#### 【委員の方からのご意見】

・取り組み状況を拝読し、高く評価いたします。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
1-1-1	「学校の教育理念」を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S	S
1-1-2	各学科の教育目標(育成人材像)を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S	S

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果: 適正

- 2-1:学校の教育理念に沿った運営方針を定めているか
- 2-2:事業計画を作成し、執行しているか。
- 2-3:運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか。
- 2-4:人事・給与に関する制度を確立しているか。
- 2-5:情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

【取り組み状況】

〔2-1〕

学校の教育理念に沿った運営方針を策定し、説明用の資料を作成した。

2023年3月3日(金)に麻生情報ビジネス専門学校の2023年度キックオフミーティングを開催し、上記の資料を用いて、全教職員に運営方針の説明を行った。

なお、学校を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中、運営方針が学校を取り巻く状況に対応できていないと判断した場合は、年度途中であっても、運営方針の修正、変更を検討する。

〔2-2〕

運営方針に沿った事業計画を策定し、学校のサーバーに保存して共有している。

事業計画の執行状況は、毎月の経営会議用の資料で管理し、週1回のリーダー会議や月1回の教務会議(全教職員が参加)において、状況の共有および対策の検討を行っている。

なお、会議や朝礼は、今年度は基本的には対面で行い密なコミュニケーションを図っているが、テレワーク等の人のために Teams の会議を起動した状態で行い、情報の共有漏れを防いでいる。

〔2-3〕

法人としての運営組織や意思決定機関は明文化されており、有効に機能している。理事長・副理事長・常務理事・理事・本部長・監事が参加する常任理事会を毎月開催しており、組織の課題等について合議している。また、各校・各部門の校長代行、部門長以上が合議・情報共有を行う部門長会議など各階層別で必要な会議体が設計され、毎月開催されている。

麻生情報ビジネス専門学校においては、授業、クラス運営等、日常の業務は、カテゴリー(分野)ごとのグループに分かれ、管理職やリーダー、サブリーダーを中心に運営を行っている。各グループは週に1回のグループ会議を開催している。

管理職やリーダー、サブリーダーは、校長代行と主任が開催する週に1回のリーダー会議に参加し、現状の共有や対策の協議を行っている。

また、校長代行と主任は、月に1回、全教職員を対象とし、情報共有を主目的とした教務会議も開催している。

本校には事務長と教務事務が配置されており、学生の就職支援や予算の管理等を行っている。事務長と教務事務は、企業との面談等によって知識、情報を得るだけでなく、計画的に研修にも参加している。

〔2-4〕

就業規則をはじめとした人事諸規程および労使協定書は法令を遵守し整備されている。

また、法人運営方針や労働関連法改正に対応し各規程の更新を実施している。

諸規程は全教職員が閲覧できるよう電子ファイルにて公開されており、変更の際は新旧対照表とともに教職員へ周知されている。



なお、2024年度の人事制度改正に向け新制度設計の整備が完了し、学校法人麻生塾人事グループが新制度内容の変更点周知に併せ既存制度の再理解を図るよう活動をすすめている。

採用活動においては年間採用計画をもとに、募集を自社ホームページや外部媒体に適宜掲載し欠員・充足状況等をふまえ更新している。選考過程ではシステムに経過や決裁等を記録保管し、適正に活動をすすめている。

〔2-5〕

学生の学籍、成績、就職等、入学前から卒業までトータルに情報を管理、共有するための情報システムとして、「麻生塾システム」という学校法人麻生塾独自の情報システムを利用している。この情報システムは、教務だけではなく、学校法人麻生塾の全部門が使用しており、情報の共有化や一元化が図られている。

また、オンライン授業や、学生と教員、教職員どうしのコミュニケーションのツールとして、Microsoft Teams を利用し、オンライン授業においても、対面授業と同等の教育効果をあげている。

麻生情報ビジネス専門学校単独でも、Microsoft Teams 上の仕組みを活用して、授業アンケートの自動化、学生や教職員へメールを一斉発送するためのメーリングリストの作成、出席状況を全学生へ知らせるメールやチャットの自動化等に取り組み、業務の効率化を図っている。

#### 【課題及びその改善方策】

〔2-1〕

特になし

〔2-2〕

特になし

〔2-3〕

特になし

〔2-4〕

特になし

〔2-5〕

特になし

#### 【委員の方からのご意見】

・〔2-4-4〕は、専門性を確保するために、特定の職業団体にアプローチする等の工夫をされていますか？

(回答:教員の採用に関して、特定の職業団体にアプローチしたことはありません。特定の企業に相談し、教員として出向していただいている事例はあります。今後、職業団体へのアプローチも検討したいと思います。)

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
2-1-1	学校の教育理念に沿った運営方針を策定しているか。また、運営方針を教職員に周知しているか。	S	S
2-2-1	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S	S
2-2-2	事業計画は適正に執行されているか。	S	S
2-3-1	法人の運営組織や意思決定機能は規程等において明確化されているか。また有効に機能しているか。	S	S
2-3-2	学校あるいは部門の運営組織や意思決定機能は明確化されているか。また有効に機能しているか。	S	S
2-3-3	運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的に行われているか。	S	S
2-3-4	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	S	S
2-3-5	事務職員の意欲や資質・能力の向上を図るための方策を講じているか。	S	S
2-4-1	人事に関する制度を整備しているか。	S	S
2-4-2	給与に関する制度を整備しているか。	S	S
2-4-3	昇給・昇格制度を整備しているか。	S	S
2-4-4	教職員の募集・採用は適切に行われているか。	S	S
2-5-1	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	S	S

基準 3 教育活動

学校関係者評価結果: 適正

- 3-1:教育理念、教育目標(育成人材像)に沿った教育課程を編成・実施しているか。
- 3-2:教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。
- 3-3:教育の評価を適切に行っているか。
- 3-4:成績評価と単位認定を適切に行っているか。
- 3-5:教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【取り組み状況】

〔3-1〕

教育理念、教育目的および育成人材像に沿った3つのポリシー(アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー)を定め、学生便覧に掲載することによって、教職員および学生に周知している。また、これらは、麻生情報ビジネス専門学校福岡校のホームページに掲載し、社会に公表している。

カリキュラムをはじめとした教育課程全般の検証のために、教育課程編成委員会を、年に2回実施した。教育課程編成委員会にて頂いたご意見は、カリキュラム会議で協議した後、カリキュラムに反映させている。

また、3つのポリシーも、教育課程編成委員会におけるご意見等を参考に、リーダー会議で協議し、必要に応じて修正・変更を行う。

〔3-2〕

カリキュラムは、教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程編成委員会における意見を踏まえ、カリキュラム会議で検討し更新している。実践的な職業教育の視点に立った教育内容が提供できているかを確認するため、一般社団法人iCD協会が提供しているiコンピテンシ デクシヨナリ(企業においてITを利活用するビジネスに求められる業務と、それを支えるIT人材の能力や素養を体系化したもの)に基づく学生アンケートも実施している。具体的には、年度初めと年度末に実施したアンケート結果を学科・学年ごとに集計し、項目毎の教育効果を確認している。科目毎のコマシラバスも毎年更新し、教師間で共有し、各シラバスに実施状況の記録を残すことで整合性の確認を行っている。

キャリア教育は、就職実務やGCB教育(グローバルシティズン・ベーシック教育、麻生塾独自のキャリア教育プログラム)等の授業、企業講演会やインターンシップ等により、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度の習得・育成を促している。

〔3-3〕

授業の評価については、学校法人麻生塾教育推進グループ(以下「教育推進グループ」という。)が事務局となり、管理職、リーダーが主体となって、前期終盤と後期終盤に授業アンケートを実施している。また、より短い周期で改善を図るため、授業ごとに、「授業のスピード」等の簡単な数項目のアンケートを、1週間に1度程度、Microsoft Teams上のFormsにより実施している。

模範となる授業は、録画して教職員の共有フォルダーに置き、全教職員がいつでも参考に見られるようにしている。

オンライン授業や、ブレンド型授業などについては、教員間で情報共有したり、動画教材を共有したりすることにより、日々改善を図っている。

〔3-4〕

成績評価、単位認定、進級・卒業判定については、学則及び各規程を定め、学生便覧に記載することにより、学生、

教職員に周知している。また、各科目の評価基準については、シラバスに記載し、学生、教職員に周知している。これらに基づき、成績評価を適切に行っている。

成績表については、複数教員でダブルチェックを行い、評価、入力に間違いのないようにしている。  
進級判定、卒業判定については、学校法人麻生塾福岡キャンパスの校長、校長代行による進級判定会議、卒業判定会議において決定している

### 〔3-5〕

法令に則り、かつ学校の教育理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮した上で、必要な教員組織を構築している。教員採用時には複数回の面接及び模擬授業を実施し採否の判断を行っている。採用後も指導担当者(チューター)を配置して OJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング、実際の職場で実務を通して学ぶ訓練)を行うことにより、指導力の向上、組織への順応を促している。

授業、クラス運営等、日常の業務は、カテゴリー(分野)ごとのグループに分かれ、管理職やリーダーを中心に運営を行っている。そのグループ内や学校全体で、資質向上のための情報共有や人材の育成を行っており、企業等が実施する、専門分野の実務能力や学生に対する指導力を向上させるための研修には、計画的かつ積極的に参加させている。

## 【課題及びその改善方策】

### 〔3-1〕

特になし

### 〔3-2〕

業界のニーズを踏まえた教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なえているが、目指す業界という明確な目的がないまま入学して来る学生や、不登校などにより学習習慣のない学生が増えている中で、業界のニーズに添った教育内容や実践的な職業教育と、それらの学生との間に大きなギャップが生じている。

→ 業界のニーズや意見に加え、学生側のニーズや意見を吸い上げることによって、入学して来る学生の大多数が成長できるような教育課程・教育内容を構築する。

### 〔3-3〕

教育の評価は適切に行い、その結果に基づく授業内容・授業方法の改善も行えているが、教育の質をさらに高めるためには、教員が授業内容・授業方法の改善を図るために使える時間を増やす必要がある。

→ 他部門を含めた法人全体で、教員の業務負荷(特に事務作業や雑務)を軽減し、授業内容・授業方法の改善を図るための時間を十分に確保できるようにする。

### 〔3-4〕

コロナ禍は落ち着きを見せており、現時点では問題ないが、健康上の問題で登校できない学生等への対応のために、オンラインでも実施可能な評価方法の確立は必要である。

→ 継続して検討する。

### 〔3-5〕

教育体制の整備や教員の資質向上の取り組みはしっかり行えているが、教育の質をさらに高めるためには、教員が研修や研究に充てる時間を増やす必要がある。

→ 他部門を含めた法人全体で、教員の業務負荷(特に事務作業や雑務)の軽減を行い、研修や研究に充てられる時間を確保し、教員が積極的に研修に参加したり研究したりできるようにする。

【委員の方からのご意見】

- ・学生状況については、入学前の問題があるのではないのでしょうか。高校へ何か提言されていますか？  
(回答:専門学校から高校への提言などは行っておりません。合理的配慮が必要な学生等については、高校から学生の情報を引き継ぎしていただくことはあります。)
- ・教員の業務軽減についてどのようなことをされていますか？ どの程度効率化できていますか？  
(回答:試験の自動採点等です。ただ、自動採点はミニテストでは実施していますが、期末試験はペーパーで行っているため、さほど軽減できていません。)
- ・新人事制度の設計整備について実際どのようなことが整備されたのですか？ 職員が意欲的になるための制度とは、どのような内容ですか？  
(回答:55歳役職定年制の廃止や給与面の改善などを行いました。)
- ・目的がなく入学してくる学生に対して、どうやって目的意識(目標)を設定していくのですか？  
(回答:担任をはじめとする教員からの話、卒業生の話、企業講演会などで目的意識の醸成に努めていますが、方向性がまったく決まっていない学生向けに、目指すべき方向を探る学科の新設も検討しています。)
- ・基礎学力が不足している学生(小学校高学年の算数レベル)に対するフォローはどのようにやっているのですか？  
(回答:教育推進グループが主催する「学びラボ」というリメディアル教育や、本校内で放課後に行っているリメディアル教育などでフォローしていますが、あくまで希望制であるため、本人の自覚と意欲は必要です。)
- ・取り組み状況、課題及びその改善方を拝読し、明確な目的がないまま入学して来る学生や不登校の学生が増えているなか、入学して来る学生の大多数が成長できるような教育課程・教育内容を構築すること。先生方の大変な努力にSを評価いたします。
- ・自己評価はすべてSですが、課題及び改善方を拝読し、教育の質をさらに高める為の改善を検討しておられる先生方の努力を評価いたします。
- ・昨年は[3-5-1][3-5-4]は自己評価Aでした。今年はSになっています。今年の取り組み状況、課題及びその改善方を拝読し、Sを評価いたします。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
3-1-1	教育目標(育成人材像)に基づきディプロマ・ポリシーを明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S	S
3-1-2	教育目標(育成人材像)に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S	S
3-2-1	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	S	S
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容(学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等)が提供されているか。	S	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S	S

3-2-4	授業科目の目標を達成するための授業内容や授業方法になっているか。	S	S
3-2-5	授業及び実習に関するシラバスは作成しているか。	S	S
3-2-6	シラバスに基づいてコマシラバスを作成しているか。	S	S
3-2-7	授業はシラバス及びコマシラバスに基づいて実施しているか。	S	S
3-2-8	専攻分野における実践的な職業教育(インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等)を教育課程に体系的に位置づけ、実施しているか。	S	S
3-2-9	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S	S
3-3-1	授業評価体制を整備しているか。	S	S
3-3-2	学生によるアンケート等で定期的に授業評価を実施しているか。	S	S
3-3-3	授業科目の目標に照らし、教育内容・授業方法が適切であるか確認しているか。	S	S
3-3-4	授業評価の結果を教員にフィードバックしているか。	S	S
3-3-5	授業評価の結果をもとに、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	S	S
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S	S
3-4-2	学生や保護者等に、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準、進級要件、卒業要件を適切に明示しているか。	S	S
3-4-3	各規程に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S	S
3-5-1	法令に則り、学校の教育理念・教育目標の達成に必要な教員を確保しているか。	S	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S	S
3-5-3	教員に必要な知識・技能を身に付け、資質・能力の向上を図るための取り組みを行っているか。	S	S
3-5-4	教員に対して、専攻分野に係る関連分野の企業等と連携して、実務に関する研修・研究に組織的・計画的に取り組んでいるか。	S	S
3-5-5	教員に対して、企業等と連携して、指導力・教授力を習得、向上するための取り組みを行っているか。	S	S

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果: 適正

4-1:学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

4-2:卒業生の社会的な活躍および評価を把握しているか。

【取り組み状況】

〔4-1〕

就職については、就職担当職員と就職年次の担任が、毎週、就職部会を開催し、求人情報や学生情報の共有を行い、必要に応じて就職活動の推進策を協議している。また、週に1回のリーダー会議や月に1回の教務会議でも就職率や就職者の割合の共有を行い、それらの向上策を協議している。

資格・検定については、週に1回のグループ会議を中心に、取得率の向上策を検討して実施するとともに、次年度に向けてはカリキュラム会議でカリキュラムやシラバスに向上策を織り込んでいる。

退学防止については、クラス担任が学生の日常のケアを行い、出席率低下等、退学の兆候の見える学生については、グループ会議やリーダー会議で対策を協議し、リーダーや管理職が担任に協力して退学防止策を講じている。

学生の良い面に着目した、出席不良や退学の対策として、前期末、後期末に、その半期が皆勤であった学生を表彰するという試みを行った。また、毎週末、全学生に出席状況を知らせるメールまたはチャットを送る試みも始めた。そこでは、出席状況が悪い学生に注意するだけでなく、出席状況の良い学生を褒める言葉を添えるようにした。これらの試みの評価はこれからだが、学生の良い面に着目するという方向性は継続したい。

〔4-2〕

企業における卒業生の状況や、企業が学校の教育活動に求めていることについては、就職担当職員が企業から聞き取り、就職部会やリーダー会議等において、教員に共有している。また、教員が就職担当職員に同行し、企業から直接ご意見を伺うこともある。

また、本校は卒業生の内定先企業にアンケートを実施し、企業への貢献度や、「資質」や「技術・資格・能力」について優れている点・不足している点の把握をしている。

卒業生の就業状況については、学校法人麻生塾就職グループ(以下「就職グループ」という。)が、企業にアンケートを実施し、1年以内離職率と3年以内離職率を調査している。

【課題及びその改善方策】

〔4-1〕

教育活動や、その改善活動は、しっかり行っているが、コロナ禍の下で高校時代を送ってきた学生がほとんどになっていることや、高校までに不登校を経験した学生が多くなっているためか、就職、資格取得、退学のいずれも、これまでの対応策が通用しない場合が増えている。

→ 結果の数字だけを追って、それに対する対策を立てるのではなく、学生そのものに着目して、入学前からの動機付けや行きたい学校づくりなど、本質的な部分に着目した対策をより強化していく。

〔4-2〕

アンケート結果の共有、活用が十分ではない。

→ 集計の区切りをつける期日を決めておき、確実に本校教職員全員に共有するようにする。また、その結果をカリキュラム会議等で活用する。

【委員の方からのご意見】

・学生の出席率については、問題のある学生の原因の把握はされているのでしょうか？

(回答:問題のある学生に対しては、担任との二者面談、担任から家庭への電話、担任等との三者面談、リーダー等との二者面談などを実施して、原因の把握と対策に努めています。)

・[4-2]、[5-1]については、就職グループ、ASO 卒業生キャリア支援 CONNECT、同窓会が連携をとり、卒業後の就職フォローのひとつとして情報収集ができませんか？

(回答:連携をより密にし、情報収集力を上げたいと思います。)

・社会的評価の基準が何なのか？就職率等にクローズアップされるのでは？

現実問題として、何をもちて活躍とするのか？定義があいまい。

(回答:何をもちて卒業生の社会的活躍とするのか、定義を検討して、アンケート作成に生かしたいと思います。)

・[4-2-1][4-2-2]は自己評価Aですが、取り組み状況を拝読し、卒業生の内定先企業からアンケートが取れることは麻生塾と企業さんが深い信頼関係が出来ているからでしょうね。個人情報保護法でなかなか回答がもらえないことが多いそうです。先生方の努力を評価しまして私はSと致します。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか。	S	S
4-1-2	資格取得率、公務員合格率及びコンテスト・コンペ入選数の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、教育活動及び学生支援の改善を図っているか。	S	S
4-1-3	資格取得等に関する指導体制及びカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	S	S
4-1-4	退学率の低減が図られているか。また結果を分析し、退学率を低減させる取組みを行っているか。	S	S
4-2-1	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	A	A
4-2-2	卒業生の卒業後の動向や就業状況を調査・把握しているか。	A	A



基準 5 学生支援

学校関係者評価結果: 適正

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【取り組み状況】

麻生専門学校グループには、グループ各校をサポートする、学校法人麻生塾学生支援グループ(以下「学生支援グループ」という。)、就職グループ等が設置されており、各校の教職員と共に、留学生を含む全学生の修学支援、生活支援、進路支援を行っている。

担任教員は、学生や保護者等との面談を適宜行っており、必要に応じて管理職等も同席している。また、面談の内容は、麻生塾システムの中に記録し、法人全体で共有している。教員以外の相談先として、学校法人麻生塾学生相談室(以下「学生相談室」という。)があり、公認心理師であるカウンセラーや専任の職員が相談に当たっている。

留学生や障がい者も受け入れており、即戦力としての人材育成指導を行いつつ、外部団体(就労支援団体等)とも連携して就職までの指導支援を行っている。

経済的支援としては、特待生制度、進級支援制度、学費分割納入制度及び無償化認定等、各種支援制度を準備し多くの学生が活用している。

就職支援に関しては、キャリアサポートセンターを設置し、専門職員による就職指導を行っている。企業インターンシップにも積極的に参加できるよう情報を提供し、参加を促している。また、卒業生に関しては再就職の相談や斡旋を行う専用のサイト「ASO 卒業生キャリア支援 CONNECT」を就職グループが中心となり運用している。

学生の課外活動支援では、学内の部活動として、野球、テニス、サッカー、バスケットボール等が各種大会上位を目指して活動している。

生活環境への支援において、直営寮・提携寮を完備しており、寮監を配置し、定期的に学生の様子を報告してもらう仕組みを構築している。

健康管理の面においては、健康診断を年1回実施。結核予防の観点から、留学生の胸部 X 線検査を入学前に実施して早期発見を目指している。また、精神面での学生が安心して学校生活を送ることができるように取り組んだ。

【課題及びその改善方策】

学生に対する支援組織体制は整備できているが、それでも教員は精神的不安を抱える学生の対応に苦慮している。  
→ 学生相談室との連携を強化する。また、勉強会を開催したり研修に参加させたりすることにより、そのような学生に対する対応力の高い教職員を育成する。

【委員の方からのご意見】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
5-1-1	学生の就職・進路支援を適切に行っているか。	S	S
5-1-2	学生相談に関する体制を整備しているか。	S	S
5-1-3	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S	S
5-1-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S	S
5-1-5	学生の生活環境への支援を行っているか。	S	S
5-1-6	保護者等との連携を適切に行っているか。	S	S
5-1-7	卒業生への支援体制を整備しているか。	S	S
5-1-8	社会人学生への支援体制を整備しているか。※	評価除外	評価除外
5-1-9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	S	S

※社会人学生とは、学生のうち、職に就いている者(給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いている者)をいう。

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果: 適正

6-1:教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

6-2:教育環境を適切に維持しているか。

【取り組み状況】

〔6-1〕

施設、設備については設置基準を遵守し、かつ教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育に必要なものを整備しており、適正に管理している。設備整備に関しては学校法人麻生塾業務推進グループ(以下「業務推進グループ」という。)と連携し、年度毎に教室見直し及び設備の補充・修繕を行い環境の維持に努めている。

麻生専門学校グループ福岡キャンパスの共用施設として、総合図書館を設置している。総合図書館では、規程やルールを定め学生便覧に掲載すると共に、教室内へ利用案内を掲示する等、学生への周知を図っている。また、固定資産管理規程に基づき、図書や書籍を含む資料類は適切に管理している。

〔6-2〕

インターンシップ(学外実習)時には条件記載の文書を基に、誓約書の作成を義務化している。インターンシップ(学外実習)実施前には、事前教育のためのマニュアルを整備し安全管理を含めた指導を行っている。

安全対策に関しては防災、防犯設備の点検や避難経路の掲示、防災訓練を実施し、教員への周知徹底を図るとともに、学生の登下校及び学校生活における事故に備えて、保険の加入を義務化している。また、災害発生時や感染症発症時の緊急連絡網も整備し、運用している。2023年11月2日に、学校から近隣の公園までの避難訓練を実施した。

【課題及びその改善方策】

〔6-1〕

教室や机の広さは、設置基準は満たしており、教育運営に支障はないものの、PC 等を用いて学習するには余裕はない。

→ 学習環境の変化に合わせて、中長期的な視点で、快適に学習できる環境を整えていく

〔6-2〕

特になし

【委員の方からのご意見】

・〔6-1-3〕については、総合図書館があるのであれば、周知だけではなく授業の中で(グループワークなどで)使うカリキュラムが作れないか？

(回答:他校との関係もあり難しい部分はありますが、検討いたします。)

・〔6-1-1〕〔6-1-2〕は、昨年は A でした。今年は自己評価 S になっています。取り組み状況を拝読し、学校の努力を評価いたします。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	S	S
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	S	S
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	S	S
6-2-1	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	S	S
6-2-2	学校における安全管理体制の整備を行っているか。	S	S
6-2-3	定期的に防災訓練を実施しているか。	S	S

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果: 適正

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【取り組み状況】

アドミッション・ポリシー(入学者受け入れ方針)を策定し、募集要項に記載すると共に、麻生情報ビジネス専門学校福岡校のホームページにて公表して、受験者に周知している。また、学生便覧にも記載し、学生および教職員に周知している。

就職実績、国家試験結果、卒業生の活躍等の教育成果は、パンフレットやホームページに正確に記載し、社会に公表している。

学生募集については学校法人麻生塾広報グループ(以下広報グループという。)を中心に、教務や就職グループも加わって、アドミッション・ポリシー(入学者の受け入れ方針)に基づいた、オープンキャンパス等の募集活動を適切に行っている。

入学者選抜については、学生支援グループと広報グループを中心に、教務や就職グループも加わって、アドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜を、入試実施マニュアルに沿って公正かつ適切に行っている。また、感染症拡大の懸念から、オンラインと来校による実施体制を整えており、運用に関するノウハウを Microsoft Team で共有することで、公正かつ適切に入学試験を実施できている。

校納金については、適切な授業料や入学金等の設定を行っている。教材費については、各学科のカリキュラムに合致した教材等を教務で協議し、妥当性、透明性を確認して決定している。

【課題及びその改善方策】

特になし

【委員の方からのご意見】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
7-1-1	入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を策定し、学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表しているか。	S	S
7-1-2	募集活動において、教育成果を含めた学校情報は正確に伝えているか。	S	S
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S	S
7-1-5	校納金(学生納付金)等は妥当なものとなっているか。	S	S

基準 8 財務

学校関係者評価結果: 適正

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【取り組み状況】

財務基盤は安定しており、貸借対照表や資金収支計算書にみる各種残高および基本金積み上げ額は、学生に必要なかつ快適な教育環境を提供できる十分な財務体質を備えている。

学校の管理、運営体制については、学校法人麻生塾経営企画グループと学校法人麻生塾経理グループが中心となり、予算計画を作成している。また、学校年度収支については、月次での予実管理を実施し、収支バランスの管理を行っている。

また、私立学校法及び寄付行為に基づき、監事による監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。なお、ホームページにて、貸借対照表・収支計算書・財産目録・監査報告書を適切に公開している。

【課題及びその改善方策】

特になし

【委員の方からのご意見】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また事業・予算計画に基づき適正に執行管理されているか。	S	S
8-1-3	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S	S

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果: 適正

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【取り組み状況】

法令、専修学校設置基準については、業務推進グループ(法務担当)、教育推進グループ等と協議し、職業実践専門課程及び文部科学省専門課程認定校の基準と併せ遵守している。また、校地・校舎・講義室・実習室等の面積についても同様の取り組みを行っている。その他の法令の遵守については、業務推進グループの支援を受け、想定されるリスクやその対応方法等を法人全体と共有している。

関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程は業務推進グループ(法務担当)、教育推進グループ等と協力して整備しており、電子文書および印刷物によって教職員に共有し、適切に運用している。

【課題及びその改善方策】

特になし

【委員の方からのご意見】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S	S

基準10 内部質保証

学校関係者評価結果： 適正

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【取り組み状況】

学校教育、学校運営について、Microsoft Teams 上の Forms を利用して、全教職員で自己点検・評価を実施している。その結果を踏まえて、組織的に改善に取り組んでいる。

また、職業実践専門課程の基準を基に、学校関係者評価委員会を開催し、教育に関する検証を行っている。

2023年度は 7 月5日に、2022年度の学校運営に関する評価をしていただいた。指摘事項については随時改善に取り組み、評価委員へ報告を行っている。評価結果は、麻生情報ビジネス専門学校福岡校のホームページにて公表している。

【課題及びその改善方策】

特になし

【委員の方からのご意見】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
10-1-1	学校教育、学校運営について、組織的に自己点検・評価を実施しているか。	S	S
10-1-2	自己点検・評価の結果に基づき、学校教育と学校運営の質の改善と向上のための取組みを組織的に、積極的かつ継続的に行っているか。	S	S
10-1-3	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施しているか。	S	S
10-1-4	学校関係者評価結果をもとに改善の取組みを行っているか。	S	S
10-1-5	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S	S



基準11 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果: 適正

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【取り組み状況】

学校の教育資源である教員や施設を活用することにより、高校教員向けセミナー、高校生向けコンテスト、高校や中学校を対象とした出張型や来校型の授業を実施している。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、季節性インフルエンザと同じ5類感染症に変更されたこともあり、今年度はいずれも数多く実施できた。

学生のボランティア活動は、学校周辺地域の清掃を「ちょボラ」と称して学生を募集し、月に1回ずつ実施している。また、留学生会(麻生専門学校グループの一部の学校に所属する留学生で構成する会)が主催して実施した学校周辺地域の清掃活動にも、本校の留学生が参加した。

【課題及びその改善方策】

特になし

【委員の方からのご意見】

・1項目め(重点項目の項)の意見と重複しますが、「お仕事スタジアム」は開催に負荷が大きいと思いますが、高校生にとって具体的な進路決定に役立つし、学生募集にも有効だと思います。

(回答:貴重なご意見ありがとうございます。就職グループ等にもご意見を共有し、開催できないか、開催方法や内容を再検討して参ります。)

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
11-1-1	学校の教育資源や施設を活用し、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S	S
11-1-2	学生のボランティア活動を奨励、具体的な活動支援をしているか。	S	S